

イオンフィナンシャルサービス株式会社 会社紹介

東京証券取引所市場第一部
証券コード:8570

- 1. 企業紹介**
- 2. 2020年2月期第2四半期業績・取組事項**
- 3. 今後の取組み**
- 4. 2020年2月期 配当予想**

企業紹介

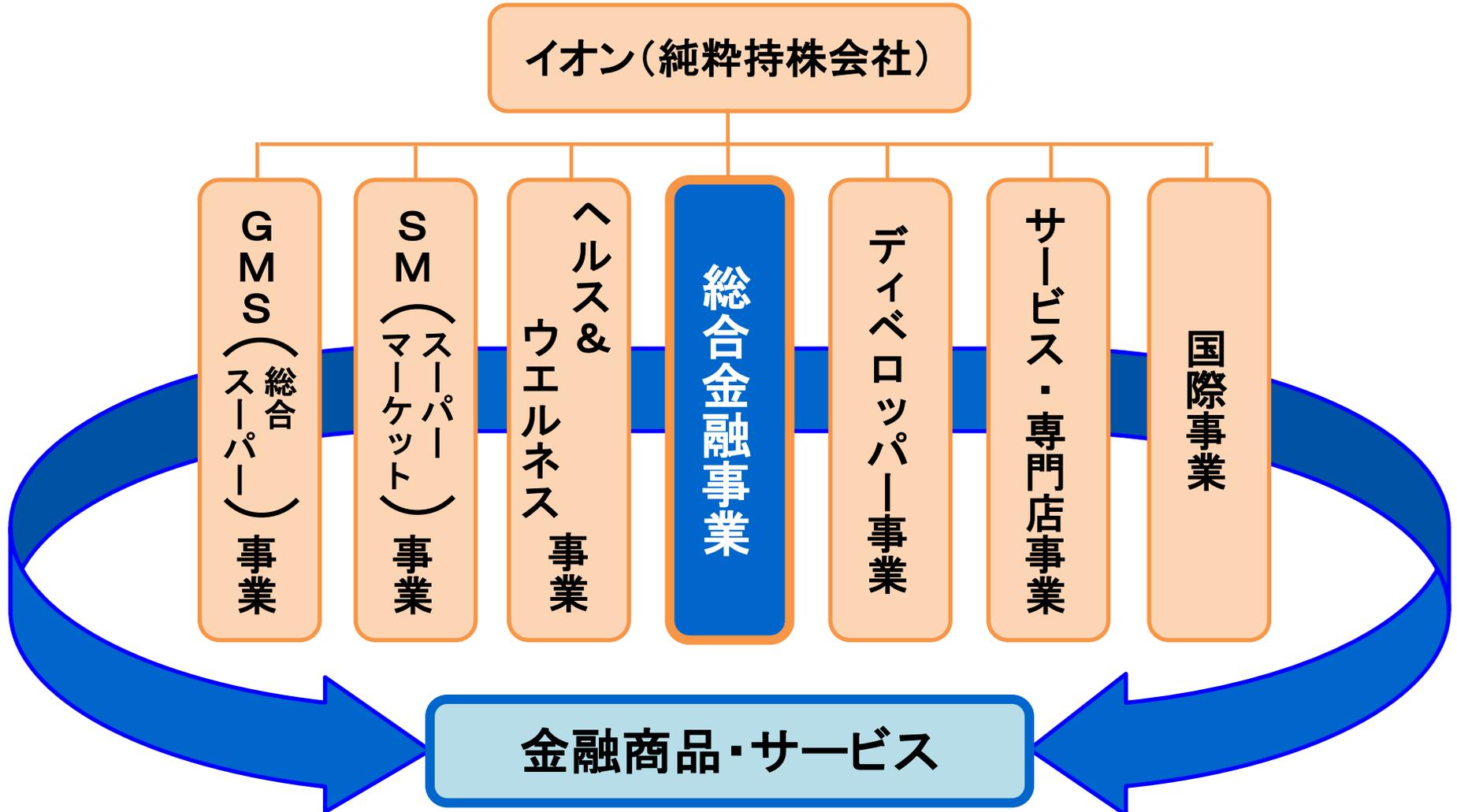
会社概要・・・沿革

- 1981 会社設立(旧:日本クレジットサービス株式会社)
- 1987 香港に支店設立、海外展開スタート
- 1992 タイに現地法人設立
- 1994 イオンクレジットサービス株式会社に社名変更
- 1996 東証二部上場・マレーシアに現地法人設立
- 1998 東証一部上場
- 2003 業界初、年会費無料のゴールドカードを発行
- 2007 イオン銀行開業
- 2009 キャッシュカード・WAON一体型「イオンカードセレクト」を発行
- 2013 イオン銀行と経営統合、銀行持株会社体制へ移行
イオンフィナンシャルサービス株式会社に社名変更
- 2016 イオン銀行「通帳アプリ」のサービス開始 ●
イオンカード公式アプリ「イオンウォレット」のサービス開始 ●
- 2019 イオンフィナンシャルサービス(株)の銀行持株会社から事業会社への移行
AFSコーポレーション株式会社設立



AFSの強み・・・・・・小売業との連携

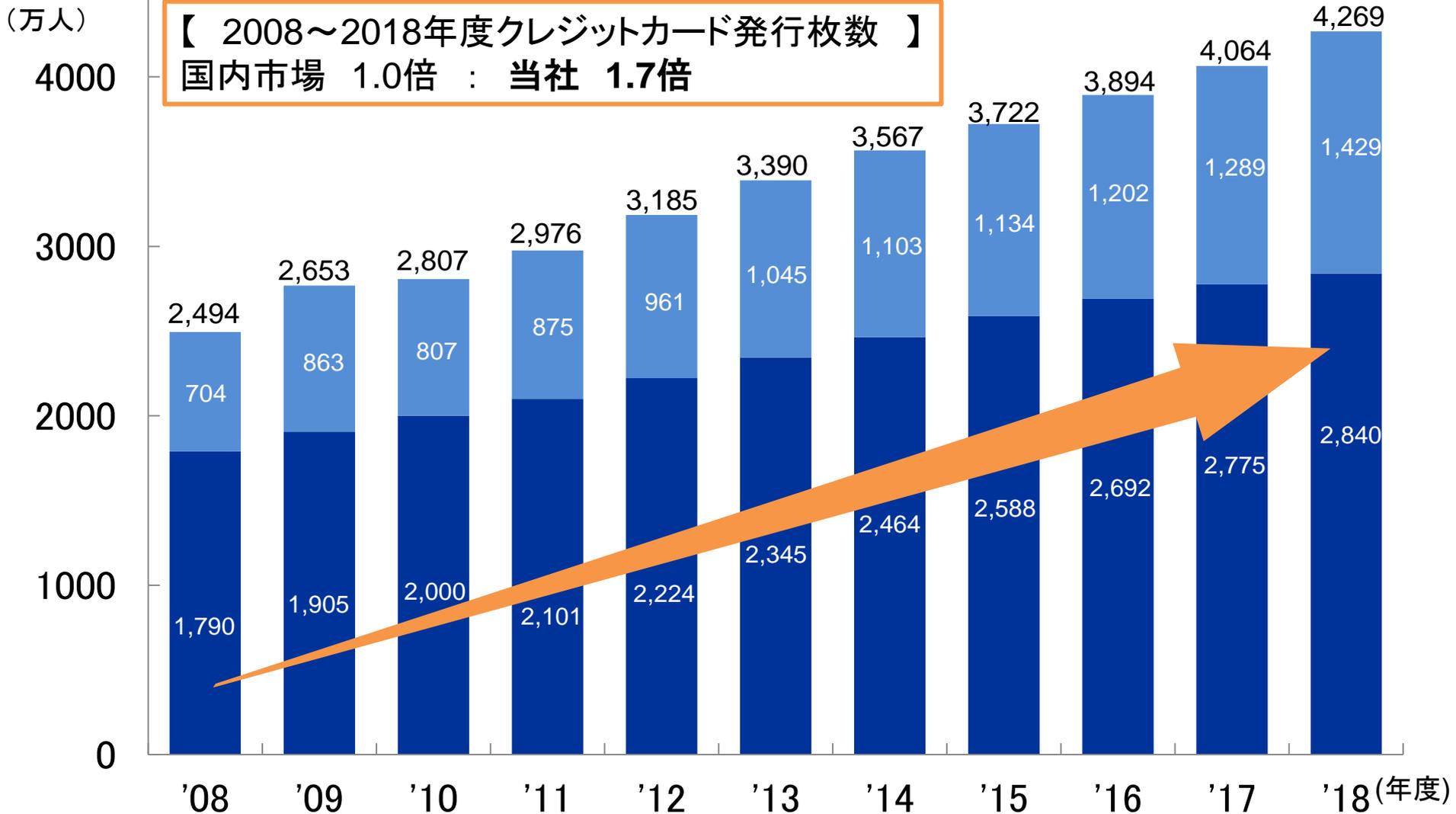
- ・イオングループの店舗ネットワークや集客力を活用
- ・グループの各事業を金融サービスで結び付け、シナジーを発揮



AFSの強み・・・主力事業の成長

- ・連結有効会員数は年々増加。18年度は4,269万人
- ・国内の会員数は国内最大級

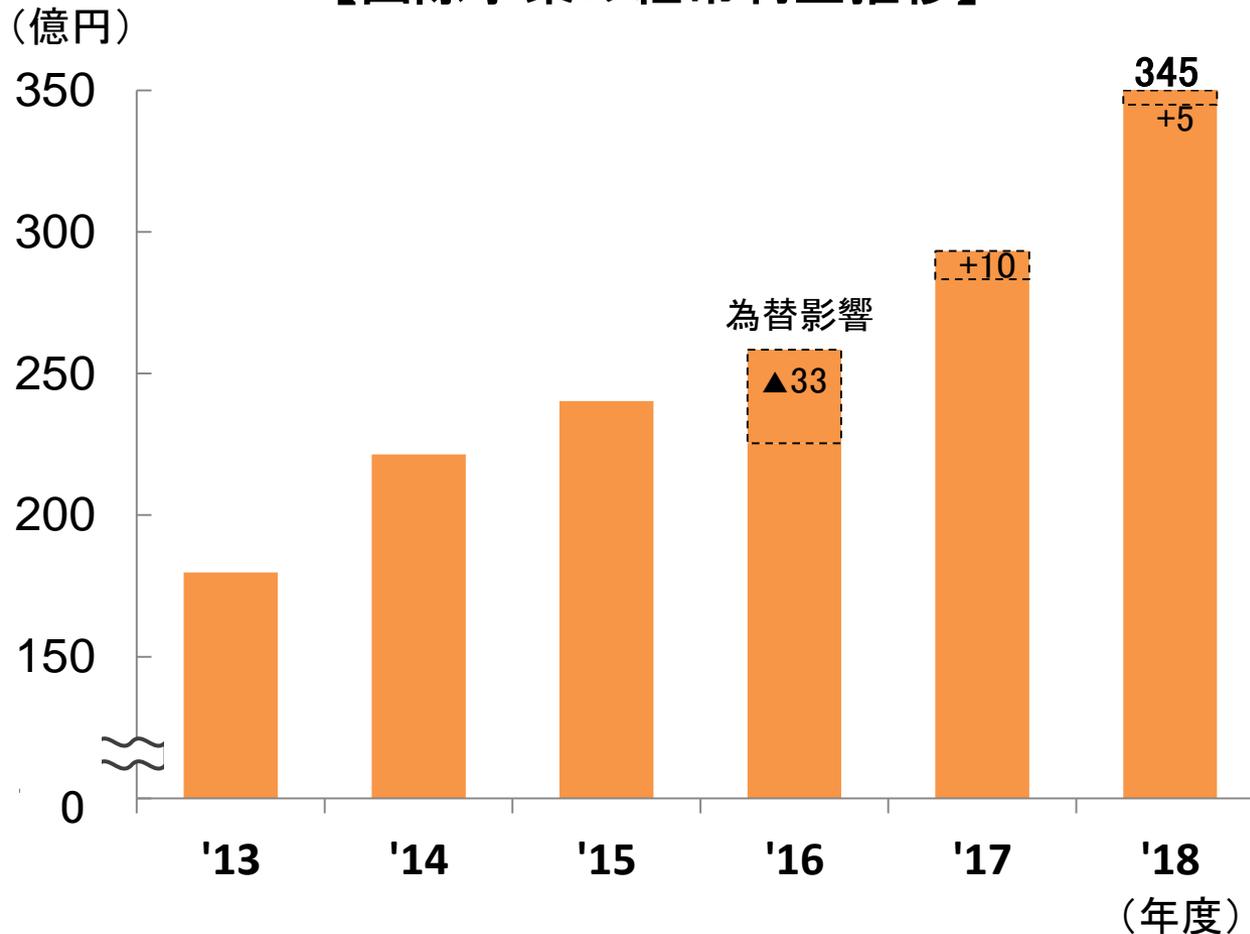
■ 国際
■ 国内



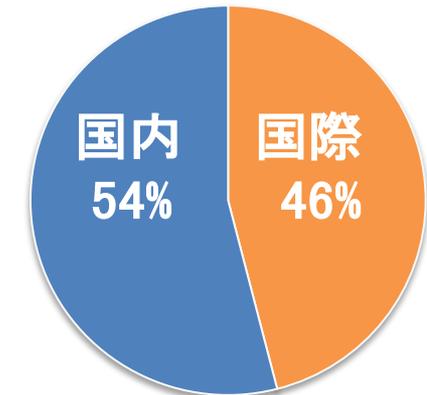
AFSの強み・・・国際事業の成長

- ・アジア各国の経済成長を背景に、国際事業の業績が伸長
- ・昨年度の連結経常利益における国際比率は5割超

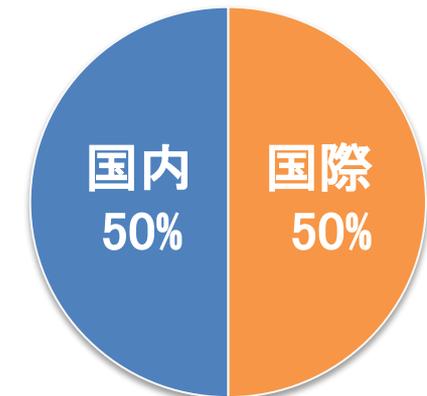
【国際事業の経常利益推移】



【経常利益構成比】



2017年度



2018年度

事業の取り組み内容-国内

・イオングループの総合金融事業を担い、幅広い金融サービスを展開

イオンフィナンシャルサービス

国内

クレジットカード

銀行

- 預金 ●デビットカード
- ATM
- 投資信託
- 住宅ローン
- 無担保ローン

保険代理店

電子マネー

個品割賦

少額短期保険

リース

国際

クレジットカード

電子マネー

個品割賦

各種ローン

保険代理店

事業の取り組み内容-国際

- ・海外現地上場3社を中心とした3つのエリアで構成
- ・イオンの小売店舗有無に関わらず、クレジットカード、パーソナルローン、個品割賦等のサービスを提供

	中華圏		メコン圏					マレー圏			
	香港 ※	中国	タイ ※	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	ラオス	マレーシア ※	フィリピン	インドネシア	インド
イオンの展開 (小売店舗)	●	●	●	●	●	●		●		●	
クレジットカード	●		●	●				●		●	
パーソナルローン	●	●	●	●		●		●	●		●
個品割賦		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
電子マネー (プリペイド)				●				●			
保険代理	●	●	●					●			
ポイントカード				●				●			

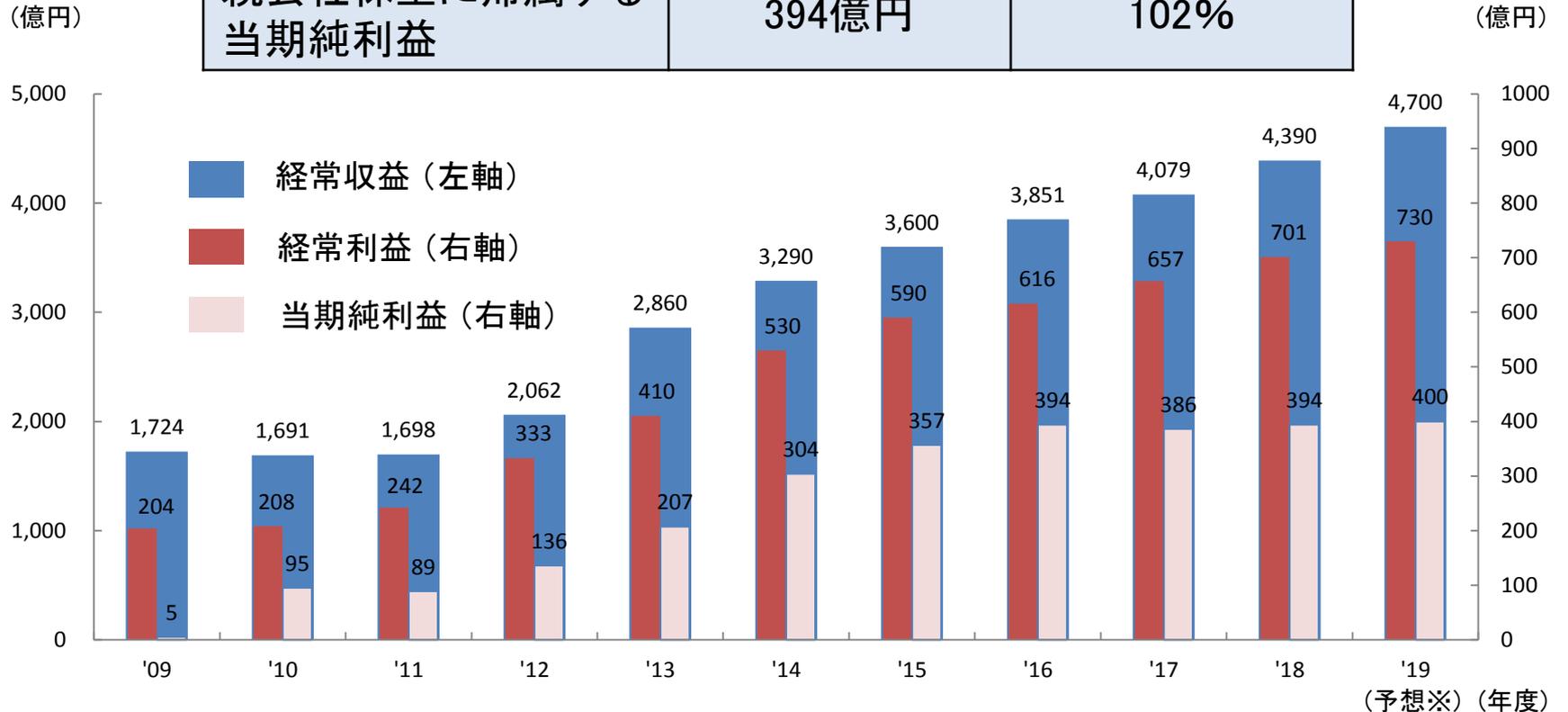
※海外現地証券取引所に上場

2020年2月期 第2四半期業績・取組事項

連結業績推移

・2018年度の経常収益・経常利益は過去最高。8期連続の増収・増益

	18年度通期	前期比
連結経常収益	4,390億円	108%
連結経常利益	701億円	107%
親会社株主に帰属する 当期純利益	394億円	102%



※2019年度は決算期を3月期から2月期へ変更(11ヶ月間)
通期業績予想は12ヶ月間(2019年4月～2020年3月)に調整した数値

2020年2月期 第2四半期 連結・セグメント業績



(単位:億円)	国内計 ※1			国際計 ※1	連結計 ※2			
	リテール	ソリューション	中華圏		メソ圏	マレー圏		
営業収益	1,611	1,000	981	752	95	400	255	2,359
前年同期比	110%	106%	112%	112%	100%	114%	112%	111%
前年同期差	+153	+58	+104	+78	+0	+50	+28	+229
営業利益	125	51	91	133	30	67	34	249
前年同期比	80%	75%	82%	77%	84%	92%	55%	76%
前年同期差	△30	△17	△19	△40	△6	△6	△28	△78
営業利益率	7.8%	5.2%	9.3%	17.7%	32.3%	16.8%	13.6%	10.6%
前年同期比	△2.9pt	△2.2pt	△3.3pt	△8.1pt	△6.3pt	△4.2pt	△14.2pt	△4.8pt
親会社株主に帰属する当期純利益								120
前年同期比								67%

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引における相殺消去後の数値

※2 本社・機能会社および連結消去額を含んだ数値

上期の取り組みー新規ID獲得および利用促進

・キャンペーンや新規カード発行等を通じたキャッシュレス化の推進

【カード入会・ご利用施策】

イオングループときめきポイント
10倍キャンペーン

イオンdeキャッシュレス!

9/13日・16日の4日間 9月は特別に 12日合計
9/21日・28日の8日間

基本の
10倍

ときめきポイントが
200円(税込)ごとに10ポイント

カード利用代金最大20%キャッシュバック

新規ご入会者限定
■ 要エントリー ■ イオン銀行口座設定された方

カード利用代金
最大20%
キャッシュバック

入会期間: 2019年7月1日(月)~9月30日(月)

利用期間		
7/25(木)~31(木)	8/25(日)~31(土)	9/24(木)~30(月)

あなたらしさの、そばに。 AEON CARD

【新規カード】

イオンカード
(トイ・ストーリーデザイン)



マルエツカード



【スマートフォンアプリへのクレジットカード
即時発行機能の追加】



イオンウォレット



- ・カード入会申込み及び即時発行が可能
- ・クーポンやキャンペーン情報をダイレクトにお届け

上期の取り組みーキャッシュレス推進施策の効果①

- ・カード新規会員獲得数は、20～30代を中心に好調に推移
- ・施策終了後の継続利用につながる利用動向を確認

【第2四半期(7月～9月度)の会員獲得状況】

新規会員数	59万人	前年同期比 1.5倍
(参考)上期実績	101万人	
イオン銀行 口座引落設定率	41%	
20～30代 構成比	37%	全会員ベース比 2.1倍

【新規入会者限定 最大20% キャッシュバックキャンペーンの状況】

- ・新規入会者数(=還元対象者)やイオン銀行口座設定率(=還元率20%)は想定以上に増加
- ・還元対象期間内(全21日間)は高額品を中心に想定以上のご利用
- ・還元対象期間外(=通常利用)稼働率は、還元対象期間内と同水準

参考:20～30代(7月～9月度新規入会)の利用動向

ショッピングリボ利用人数	前年同期比 135%
キャッシング利用人数	前年同期比 120%

還元施策をきっかけに普段使いのカードとして利用が促進

上期の取り組みーキャッシュレス推進施策の効果②

・キャンペーンや請求明細のWEBシフトを通じて、WEB登録やイオン銀行口座保有のカード会員が増加

	2019年 3月末	2019年 9月末	
稼働会員数	1,749万人	1,791万人	+42万人
WEB登録会員数	858万人	1,026万人	+168万人
WEB明細請求件数 WEB明細 / 全請求件数	約380万件 32% (5/7引落分)	約960万件 75% (11/5引落分)	2.5倍
イオンウォレット ダウンロード数	247万人	530万人	2.8倍
イオンカード セレクト会員数	486万人	511万人	+25万人

※イオンカードセレクト:イオン銀行キャッシュカード一体型クレジットカード

今後の取組み

今後の取組み-国内

・会員へのWEB化を通じたアプローチ強化

クレジットカード有効会員
+
イオン銀行口座会員
||
約3,050万名 (9月末現在)

新規ID獲得

<商品・サービス・情報提供チャネル>

スマートフォンアプリ「イオンウォレット」



- カード入会申込み機能
⇒会員募集コストの削減
- WEB明細の促進
⇒請求書郵送コストの削減
⇒CO2排出量の削減
- One to One マーケティング
⇒タイムリーな情報提供

店頭窓口

SNSメッセージ

デジタルサイネージ

その他メディア等

【下期 カード発行済カード】

➢若年層の顧客をメインターゲットとしたカードを発行し、更なるID獲得を図る

イオン銀行CASH+DEBIT
(ディズニー・デザイン)

イオンカード
(樺坂46)



【継続利用の促進】

- メインカード化を図る
⇒公共料金引落とし
登録キャンペーン
⇒ポイントアップ
キャンペーン



【クロスユースの促進】

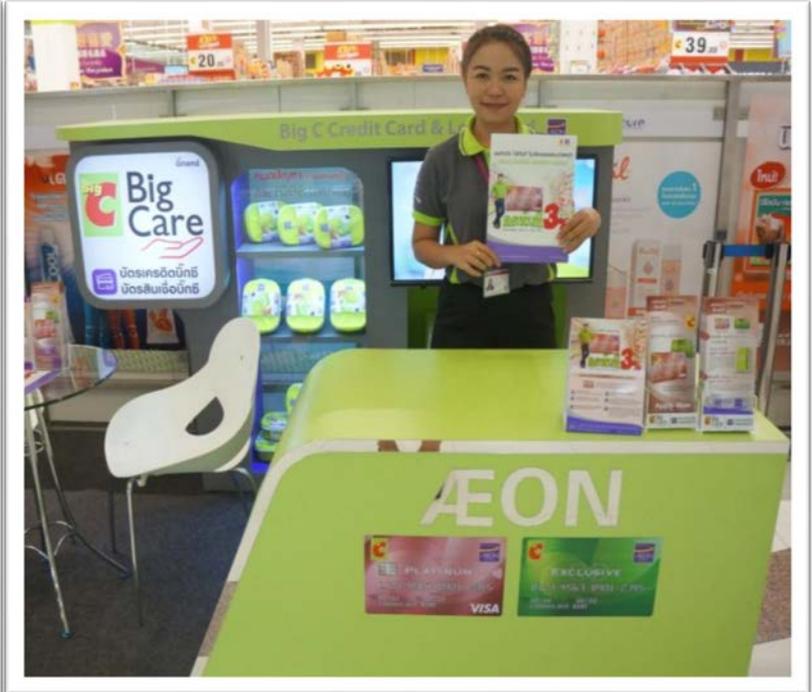
- 資産形成サービスの提案強化
⇒外貨預金キャンペーン
⇒資産運用セミナー



- ときめきポイントや口座預金の消費への還元
⇒電子マネーWAONへのチャージ・利用促進

今後の取組み-国際

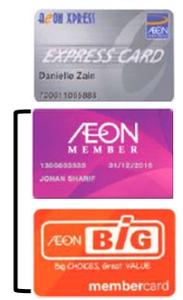
・イオングループの小売事業との連携強化



【マレーシアの取組みを他国へ展開】

当社のメンバーカード

グループ小売2社のポイントカード



アプリへ集約
ID共通化



他国へ展開



インドネシア

ベトナム

カンボジア

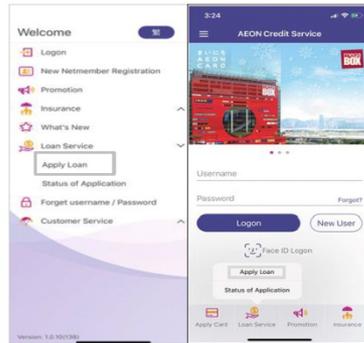
今後の取組み-国際

・フィンテックによる商品・サービスの利便性向上

モバイルアプリを活用したサービス強化

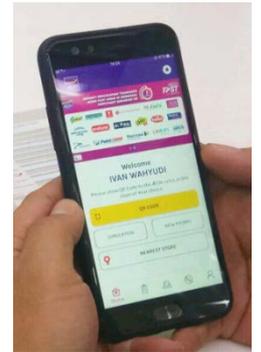
【香港:オンライン完結型ローン】

- ・申込みから審査まで
モバイルアプリで完結
- ・銀行口座への送金を
即日実施



【インドネシア:即時審査アプリ「AEON FAST」】

- ・即時審査アプリの導入により、
利用可能額の審査時間を短縮
→利便性向上及び取扱高の拡大



IoTを活用したオートローン事業の展開

- ・IoTデバイスによるエンジン遠隔制御により信用力を創出
→ 支払能力はあるが審査に通らない層
(アンバンク層)への商品提供

2018年度

2019年度



フィリピン



インドネシア

四輪タクシー向けに
ローンを提供



ベトナム

小型トラック向けに
ローンを提供

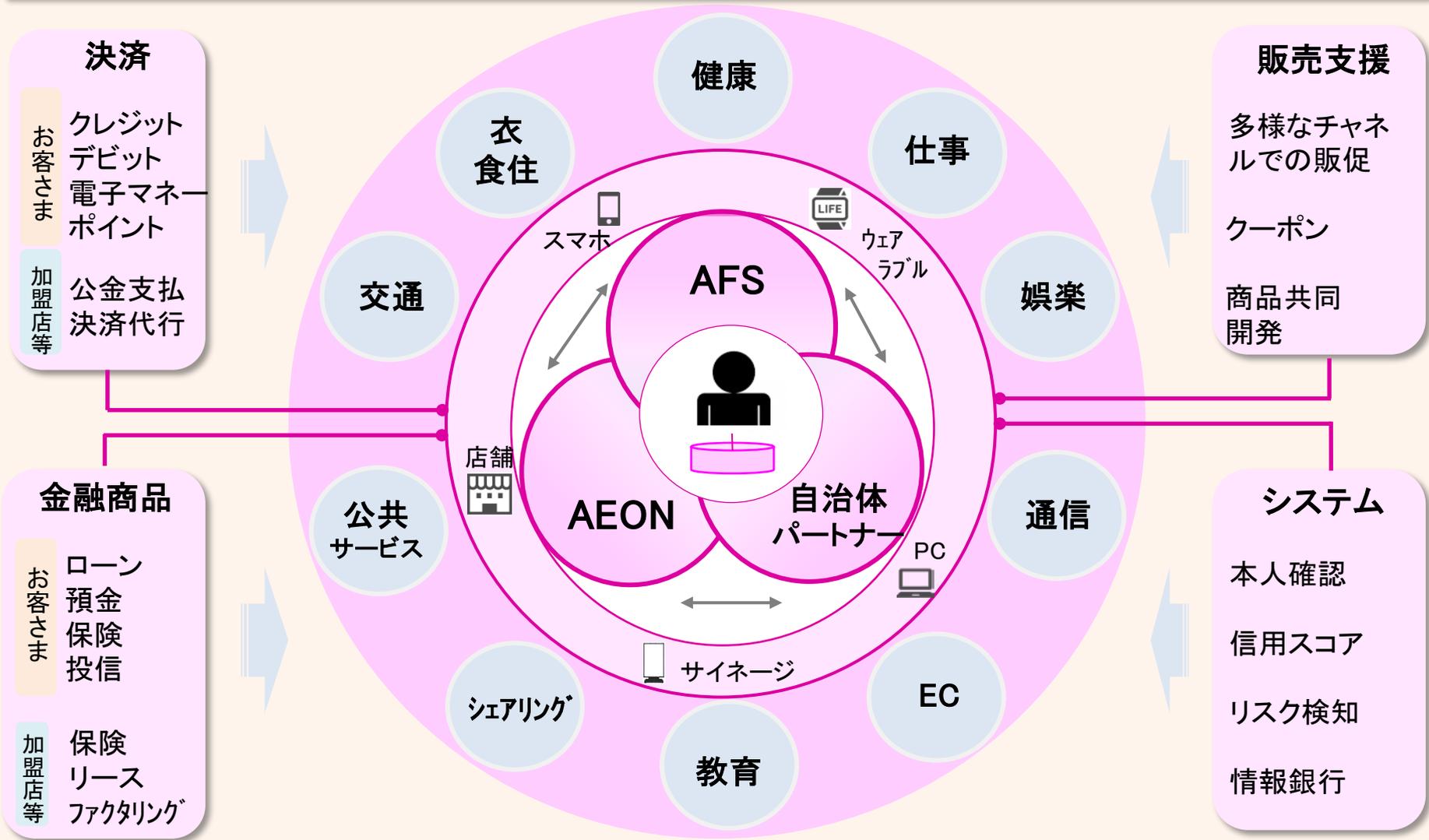


インド

四輪タクシー向けに
ローンを提供

今後の方向性

一生に亘り、心配事がないよう幅広く暮らしをサポート
 簡単、便利、お得な生活・金融サービスを提供



2020年2月期 配当予想

2020年2月期 連結業績予想

・業績予想は変更なし

業績予想※1	2020年2月期 (2019年4月1日～2020年2月29日)	
	通期 (11ヶ月間)	(参考※2) 12ヶ月間換算数値
営業収益	4,300億円	4,700億円
経常利益	700億円	730億円
親会社株主に帰属する 当期純利益 (1株当たり当期純利益)	380億円 (176円11銭)	400億円 (185円38銭)

	第2四半期末		期末		年間		配当性向※1	
	実績	前期比	予想	前期比	予想	前期比	予想	前期比
配当予想	29円	±0円	39円	±0円	68円	±0円	38.6%	+3.8%

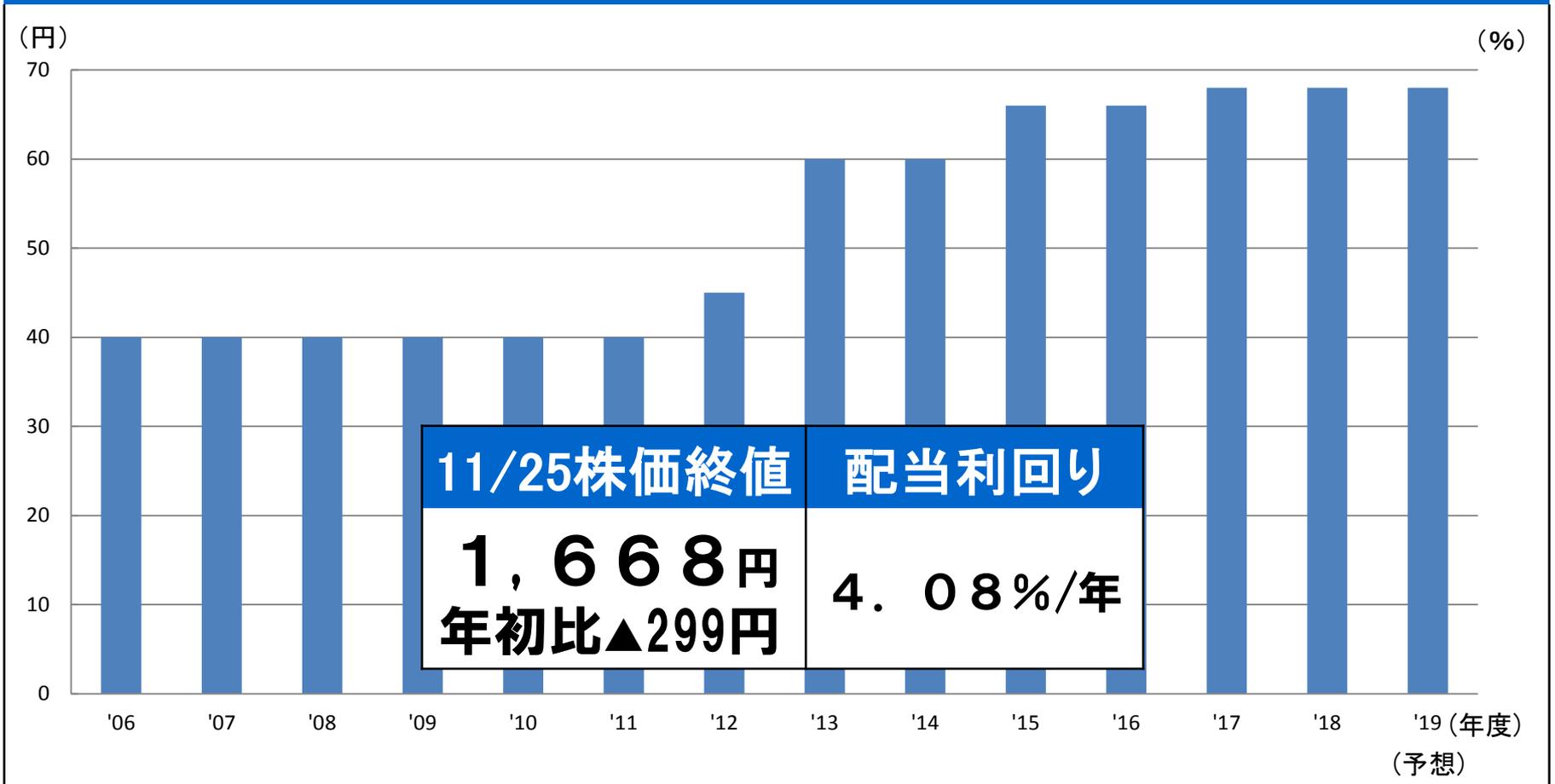
※1 業績予想および配当性向は、決算期変更後の2020年2月期(11ヶ月間)の数値

※2 通期業績予想を12ヶ月間(2019年4月～2020年3月)に調整した数値

配当推移

- ・株式上場以来、安定配当を維持
- ・加えて、利益成長に応じた増配、記念配による株主還元を実施

1株あたり配当金額の推移



～今後もより良いサービスのご提供に努めてまいります～

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確定要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス